



成果指標				
成果指標	公害問題発生件数(件)			
指標設定の考え方	環境破壊を未然に防ぐには、まずもって公害問題を発生させないことが重要と考えられることから設定。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	0	0	0	0
実績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	これまで必要に応じて調査していた水質関連調査を、今年度から水質調査等測定計画を策定し、工場排水調査・河川水質調査・海水調査・環境保全調査として再編した。それぞれの調査地点が定点調査となることで、データの蓄積が行え水質の変化を分析できる環境が整ったと言える。これから、これまでの調査データを整理し電子データ化することで、環境変化を見える化し、持続的な環境が維持できるよう監視して参りたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	今まで行ってきた水質関連調査については、時期や、場所等において一貫性を持たずに調査してきました。しかしながら、長期的な視野に立ち、時期や場所を固定することにより、水質の数値がデータ化することができるようになる。これにより、汚濁の方向に向かっているのか、改善の方向に向かっているのかの判断材料として活用していきたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題